

タイトル：2021年度 教育セミナー（第17回）

日時：2021年9月16日（木）～19日（日）

オンライン開催

「イスラームと民主主義の一側面—あえて民主主義を否定する」

山岡 陽輝（慶應義塾大学大学院法学研究科）

本セミナーに私が参加をさせていただくのは、今回が2回目となりました。

昨年、学部生であった私は、オブザーバーとして参加させていただきましたが、その際の内容の濃さやポジティブな印象、その場での学びが、私を再度の参加に動かしたということです。

2回目の応募にもかかわらず、昨年同様に参加を認めてくださり、また、セミナーの運営・準備にあたってくださった、AA研の先生方及び事務局の千葉さまに、厚く御礼申し上げます。おかげさまで今年も、非常に充実した、得るものの多い4日間を過ごすことができました。

以下では今年の感想を、（次回以降の参加を検討されている方が、これを読んでいるかもしれないということを念頭に置きながら）述べたいと思います。

今回のセミナーでは、4日目に発表をさせていただきました。

発表を決心したのは、前回の参加時に、受講生に加えて多くの先生がコメントをされている光景を目の当たりにし、このような贅沢な機会を利用しない手はないと考えたからでした。実際に、今年の私の発表に対しても、本当に多くの方がさまざまな角度から質問やコメントをくださり、自分では気がつかなかった点のご指摘や、新しいアイデアをたくさんいただきました。

特に今回は、4日間を通して参加してくださった他大学等の先生も多く、また、その先生方からもコメントを頂戴することができ、さらに贅沢で貴重な時間であったと思います。

発表をするということは、やはり、一定程度の決心を必要としました。発表題目と要旨を記した書類を送付してから実際に発表するまでの約3ヶ月間は、常に、その締め切りが意識されます。

それは、意識がそこに向くという点で、（軽い）プレッシャーになります。けれども、この「（軽い）プレッシャー」というのは、今から振り返れば、夏休みを有意義に過ごす鍵であったようにも思われます。

私にとっては大学院に入学後の最初の夏休み、今回の発表の機会がなければ、（一定程度）

目標がかすみがちな日々になっていたであろうことが想像されます（もちろん、この最大の原因は私の怠惰な性格にあります）。しかしながら、「発表をする」という事実（極めて明確な目標）によって、日々の過ごし方が大きく変わったのは、間違いありません。その意味でも、発表をするという選択は、大きな意味をもつものでした。

ところで、残念ながら今年も、新型コロナウイルスの影響により、セミナーはオンライン開催となりました。やはり、対面で一度は参加してみたいという、「憧れ」のようなものは残っていますが、今後いかなる形態となるかは、何よりも社会の状況によるのでしょうか。

しかしながら一方で、オンライン開催のメリットもありますし、また、何よりも、充実したものになるようにと、スタッフの皆さまにはさまざまな工夫をしていただきました。おかげさまで、受講生の交流も深まりましたし、また、先生方の温かさを多くの場面で感じることができました。

最後になりますが、改めまして、本セミナーに関わってくださったすべての皆さまに、御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。